

日本のシェアサイクルのあり方 No.1

エリアマネイジメントに位置づけた シェアサイクルの仕組みづくり

— 栄ミナミまちづくり会社の設立と取り組み —

文

国立大学法人 名古屋工業大学大学院 准教授
社会工学専攻／社会工学科 建築・デザイン分野

伊藤 孝紀

一般社団法人 日本シェアサイクル協会
事務局：TEL 03-3663-6281 URL <http://www.gia-jsca.net>



昨今、「エリアマネイジメント」という言葉がよく使われます。まちづくりとは、個々の活動ではなく、地区や地域が一体となって街の魅力を生み出していくことです。従来は、その取り組みが、地域に想いがある人物に起因するところが大きく、ボランティア精神に支えられていました。しかし、まちづくりは一朝一夕では成り立たないですし、それでは特定の方の善意が途絶えると持続できなくなります。そのため、「まちづくり会社」など組織を法人化するのも一つの手段です。

エリアマネイジメントにとっては、ゴミ収集や植栽の整備、安心安全の維持や駐輪整備などの「公益事業」と、広告やイベント、物販飲食店など「収益事業」が相互補完する仕組みづくりが重要なポイント。言うなれば、まちづくりを通して、ヒトとコトとカネが循環する「儲ける仕組み」をつくることです。そして、儲ける仕組みを、個人の資産ではなく、「共益」の資産として持続可能な組織にすることも、「まちづくり会社」が担う重要な役割の一つです。

もう一方で、「まちづくり会社」を設立することで、行政から「都市再生整備法人」の認定が受けられるようになります。認定されると、「都市再生整備計画の提案」と「都市利便増進協定の締結」が可能となります。一見、難しい言葉ですが簡易にまとめると「行政に計画提案できる権限」と、道路や公園など「公共空間で商売をしても良い権利」が得られるということ。この二つの魔法によって、行政にお願いばかりするのではなく、自らが街の計画（デザイン）をし、自らが運営（マネイジメント）できるようになるのです。

シェアサイクルの普及は、交通計画的な視点に加え、景観や街並み、経営や運用システム、利用者の利便性などを考慮するのはもちろんのこと、一番の意義は設置する地区のエリアマネイジメントの一助となり、まちづくりの全体像を描きながら位置づけていくことが重要でしょう。

ちょうど、昨年（2016年）11月16日に、名古屋市栄

ミナミ地区では「栄ミナミまちづくり会社」が設立されました。まちづくり会社の多くは、行政主導や鉄道会社、大手デベロッパーが中心であるのに対して、この会社は、14町内会と6商店街、3組織によって構成されています。また、出資金には、行政のお金は一円も入っていません。これは、「全国初、市民中心のまちづくり会社」といっても過言ではない画期的なことです。

「栄ミナミまちづくり会社」も一朝一夕で生まれたわけではありません。2007年春から、街中がライブステージとなる「栄ミナミ音楽祭」がおこなわれ、夏には「栄ミナミ盆おどり」、秋には名古屋B級グルメの決定戦「NAGO-1グランプリ」など、街を活気づけるイベントが企画運営されています。同じ頃、長期ビジョンを見据えたマスタープランの作成にも取り組み始め、私の研究室もご一緒させていただきながら、栄ミナミ地区の特徴を顕在化するプランを描きました。栄ミナミ地区を俯瞰すると「くの字」型に曲がっているのをモチーフに、ロゴマークから街路灯など街を構成する要素が統一したデザインを提案し、何処にもない唯一無二の景観をつくることを意図しました。

2013年、一本の街路灯（商店街）から始まり、現在では、南伊勢町通とプリンセス大通を中心に150本の街路灯が実現しています。一方、歩道上には、違法放置自転車が溢れかえっていました。そこで街路灯が増え、街の変化が顕在化されるのを助長するように、歩道上の使われていないオブジェや防護柵、ゴミ溜まりになっていた低木植栽帯を撤去することで歩道空間を拡げ、できた余剰空間に白線で駐輪場を示唆する領域を描きました。広くなった歩道上に白線を引いただけですが、生真面目な名古屋人の性格からでしょうか、枠内に整然と駐輪する姿がありました。

他方、2015年秋には、プリンセス大通のアーケード改修によって、全国初となる道路（車道上）に広告を掲出する社会実験を実現しました。この収益は、三蔵通に

沿って名駅地区へとつなぐべく、2kmに約250本の桜（オカメザクラやオウカンザクラなど開花時期や種類が異なる桜）を植える構想を描き、「桜名所」となるべく還元されています。

さらに、2016年5月には、全国初となる道路（歩道上）のタッチパネル式デジタルサイネージを7ヶ所に設置されました（写真①②）。広告の掲出だけでなく、地区内のイベント情報や店舗の紹介、無料WiFiやスマートフォンで読み取れるQRコードの表示、さらに防災時の音声による誘導案内など、多機能な装置となっています。子どもや若者が利用している姿を見て、高齢者の方も使うなど、時には列が出来るまでになっています。

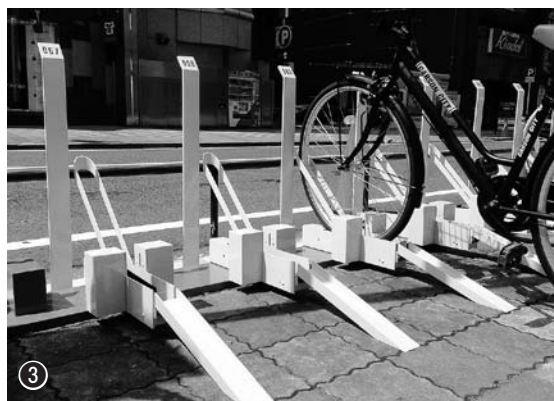
同年7月には、全国初となる駐輪禁止地区の指定無しに有料駐輪システムの導入をしました（写真③）。こちらも、名古屋人の気質が良いために、有料駐輪を敢えて利用する様子や、駐めることで地区内の店舗から割引や特典がいただけるなど互助の関係がつくられつつあります。

そして、同年10月には東海初となる、シェアサイク

ル「でらチャリ」を稼働させました（写真④⑤）。ステーションは3ヶ所とまだ少ないですが、栄ミナミ地区に限らず、名古屋人の誇りとなり、愛されるようなネーミングにしました。他地区や駐車場、ホテルや観光施設などとの連携も検討されています。

これらのデザインは、全て「くの字」型に曲がった共通モチーフを用いて、地区全体に一体感が生まれることを意図したデザインを目指しています。ブランド戦略におけるデザインと同様に、コンセプトが細部から全体にわたって表現させることで、市民一人一人に浸透するとともに、観光客にも一目で分かり、使いたくなる仕掛けとなることでしょう。こういった取り組みに加え、地区内の道路の再配分や、イベントなど賑わいの拠点となっている矢場公園を、防災拠点ともなるべくリニューアル計画が進んでいます。

市民主体のまちづくり会社を中心となって、エリアマネージメントを進める一助として、シェアサイクルを捉え、地区資産として定着させることが重要です。 PP



伊藤 孝紀 (TAKANORI ITO) / 建築家、デザインディレクター

国立大学法人 名古屋工業大学大学院工学研究科 准教授
博士（芸術工学）
有限会社 タイプ・エービー 主宰

【伊藤孝紀プロフィール】

1974年三重県生まれ。94年TYPE A/B設立。97年、名城大学建築学科卒業。

07年、名古屋大学大学院芸術工学研究科博士後期課程満了。07年より名古屋工業大学大学院 准教授・博士（芸術工学）。

建築、インテリア、家具のデザインや市場分析からコンセプトを創造しデザインを活かしたブランド戦略を実践。行政・企業・市民を巻き込んだ街づくりに従事し、社会・世界に向け活発に活動中。